新聞　（第3種郵便物認可）

渡辺選手 8位で連日入賞

スケート国体閉幕

リレー2種目で7位

第68回冬季国体・スピードスケート競技は最終日の31日、郡山市の郡山スケート場で決勝12種目を行い、閉幕した。県勢は4種目に出場し、少年男子5000㍍の渡辺晟選手（郡山商高2年）が8位、少年女子、成年男子の2000㍍リレーもそれぞれ7位で入賞。少年女子3000㍍の水沢彩佳選手（同）は転倒で10位に終わった。県勢は4日間で男女16人が計17種目に挑み、6種目で入賞を果たした。

少年男子5000㍍で8位入賞を果たした渡辺選手（中央、31日、郡山市の郡山スケート場で）

「来年こそ表彰台を」

12人が出場し、上位8人が入賞となる少年男子5000㍍決勝。序盤で抜け出した5人が差を広げ、渡辺選手は入賞を争う第2集団で機会をうかがった。

ラスト2周でスパートを切ると、リンク脇で応援していた県選手団から「行け」という声が聞こえた。9位の選手をわずか0・08秒差でかわし、前日の1500㍍に続く8位。「きつかったけど、みんなの声援で頑張れた」と語った。

昨年の国体では決勝の舞台にすら立てなかったが、今大会は2種目で入賞を果たした。「自信になる。来年こそ表彰台を狙いたい」と、さらなる飛躍を誓った。

◆…31日の記録…◆

◇…スピードスケート…◇

▽少年男子5000㍍決勝　⑧渡辺（郡山商高）（5位以下タイムなし）

勇気与えた国体 復興への一助に

県内で18年ぶりに開催された国体で、県勢は表彰台こそ逃したが、高校生や大学生の活躍で6種目入賞を果たした。震災や原発事故からの本格的な復興を目指す県民に勇気を与えた。

注目の水沢彩佳選手は個人種目で最高5位、渡辺晟選手も2種目で8位となった。会場には連日、大勢の観客が訪れ、浪江町から秋田県に避難し、同県代表として出場した古農りつ子選手にも温かい声援を送った。

原発事故による風評被害が続く磐梯熱海温泉を始め、周辺のホテルや旅館は期間中、各都道県の選手団や応援団、観客でにぎわった。大会前にスケート場の改修も行われ、復興支援のため、郡山を会場にした成果はあったと言える。

県代表の菊池由喜男・少年女子監督は「地元の小中学生がたくさん見に来てくれた。競技人口の増加につながれば」と期待を寄せる。

国体の成功をスケート界の底上げや観光振興にどう生かすか。真価が問われるのはこれからだ。

（樽田直樹）

姉妹 最後のバトンパス

古川 栞有（しおり）選手（郡山商高3年）
幸樹（さき）選手（尚志高2年）

9チームが争う少年女子2000㍍リレー決勝で、姉の栞有選手＝写真左＝が第一走者、妹の幸樹選手＝同右＝が第二走者を務めた。姉が左手に握ったバトンを伸ばすと、妹は右手でしっかり受けた。「行け、幸樹」。姉のかけ声を背に、妹は足に力を込めた。

4人きょうだいの長女と次女。長男は、成年男子500㍍で6位入賞した耀（あきら）選手（山梨学院大2年）だ。兄を目標に、姉妹は自宅で互いに体を押さえて腹筋を鍛えたり、ロープを使ってコーナーワークを磨いたりと、一緒に練習を積んできた。

栞有選手は高校を最後に競技をやめる。姉妹で挑む大舞台はこれが最後だ。個人種目は2人とも予選敗退だったが、リレーでは息のあったバトンパスで7位入賞に貢献した。「姉と一緒だと心強かった。さみしいけど、1人でも頑張る」と幸樹選手。栞有選手は「もっと筋力を上げて、来年はさらに上を目指してほしい」とエールを送った。

（鈴木英樹）